

(四)	(三)	(二)	(一)	
<p>るをるべ人けとの福 と新たて達るで論祉 いためをの共、理の うに、巻み助患に对 こ生そきな助者基象 とみれ込らな行のいの 。出らみず為共た人 すがなが係が生実々 世もがらす、を践に 界たら実る共模を対 へら実践も同索行し つす効さの体しうケ なが能れすの続こア</p>	<p>をてのだのだ患 孕行選と責と者 むわ択い任みは とざはうをな医 いる漠前自す療 うを然提身考情 こえとががえ報 となしあ負はを 。いたりう、選 と欲、独患択 い求しりのはる うにかも存選顧 危従も存在択客 険っそ</p>	<p>るす彼え障社 考るらか害会 えべにら者のの にき積、を治 変だ極地排安 わとの域的除維 ついにのす持 たう寄り同きた と共り体だめ い助添いがとな うをい、苦いう こ重、支しう精 と視支しう考神 。す援む考</p>	<p>しで学てずやケ い、や、知家ア か相疫苦ら族を た互学しずと通 ちの支よ患非関て の緊援ら者感係の 密しないち者染性み な合い独のもは繋 関う自心参加し、 係といの身をし、 性。う方方を医見 新法医見</p>	<p>平井</p>